

春のおすすめ 新品種①

黄化葉巻病・黄化えそ病に
耐病性を持つ、
高収量・高糖度で
食味の良いミニトマト



品種特性

▶ 高収量に優れる

平均果重17gのL・Mサイズで揃い、収穫の波が少なく栽培後半まで収量安定な高収量タイプ。複合果房の発生が良く、ダブル果房で良く揃う品種です。また果房先端まで肥大が揃い、二次成長はしにくい特性を持ちます。



果数 ●ダブル果房が中心 複合果房の発生率 ●ダブル・トリプル果房率:
●平均24~30果 ●発生率 60~70%

3段果房まではシングル中心で、その後7~8段はダブル果房。シングルを1段を挟んだ後も7~8段はダブル果房の発生が見込めます。



厳冬期(1~2月)は果房は短くなるものの、複合果房は発生します。果数はダブル果房で平均16~18果、果実サイズはLが20%、Mが70%、Sが10%の割合です。

▶ 高糖度で食味に優れる

平均糖度が高く甘さと酸味のバランスが良いうえ、食べたときに果皮が口の中に残りにくく食べやすい特性を持ちます。

▶ 早生性・艶・果色・耐裂果性に優れる

早生性があり厳冬期も色周りに優れ、また耐裂果性にも優れた特性を持ちます。

▶ 果形に優れる

丸みのある果形で果揃いに優れ、収穫初期でも果実が縦長になりにくい品種です。

▶ 芯止まり・異常茎の発生が少ない

異常茎が発生しづらいため、安心して栽培できます。草勢を強めに管理することで、収量アップにつながります。

ミニトマト

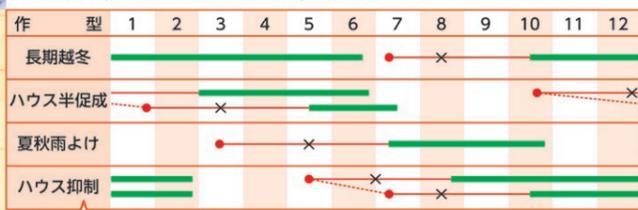
MST-1328

近年の天候不順などにより病気の発生や生理障害、収量の低下が問題になっています。作物の病害では複合耐病性品種が求められますが、形質や食味が従来品種より劣ると思われがちです。また、収量性と高糖度は両立することが難しい特性と言われます。

そこで、複合耐病性を持ちながら、食味・糖度・収量性の良い品種を目標に育成を行いました。ご紹介する『MST-1328』は、「複合耐病性」「安定高収量」「高糖度」「良食味」などを併せ持つ新品種です。特に複合果房の発生率と綺麗な果房・果実形質にこだわった品種であり、試作産地でも高い評価を受けています。

武蔵野交配 MST-1328

ミニトマト MINI TOMATO MST-1328 F₁
100粒 4,719円・1000粒 42,900円



適応作型
●長期越冬栽培・半促成栽培に最も適します。
●暖地の夏秋作型や6~7月定植の抑制栽培では高温により花数が多くなる時があるので、その場合は摘花を行います。

- ▶ 食味に優れ、平均糖度が高い。
- ▶ 複合果房の発生が良く、ダブル果房で良く揃う。
- ▶ 平均1果重17gで、L・Mサイズが中心。
- ▶ 異常茎・裂果の発生は少ない。
- ▶ 草勢は中程度。

	草勢	果重(g)	TYLCV	TSWV	CL	F-1	F-2	FCRR(J3)	V-1	LS	N	ToMV
MST-1328	中	17	○	○	Cf-9	○	○	-	○	○	○	Tm-2 ^a

TYLCV:黄化葉巻病、Cf-9:葉かび病、F-1:萎凋病レース1、F-2:萎凋病レース2、FCRR(J3):根腐萎凋病、V-1:半身萎凋病レース1、LS:斑点病、N:ネコブセンチュウ、Tm-2^a:トマトモザイクウイルス病

栽培のポイント

1 草勢の維持・追肥

肥料に鈍感であり、異常茎・芯止まりの発生が少なく、また早生で色周りが良い品種ですので、早めの追肥・灌水を心がけ、追肥に迷ったら追肥を行ってください。追肥時期は3段果房開花時、以降は奇数段ないし2週間おきに草勢を見て追肥。1回量は、液肥1kg/10a、化成1~2kg/10aを晴天時に行ってください。

茎径が細い、葉色が薄い、茎アントシアンが少ないなど草勢が弱いと判断した時は、追肥・灌水・葉面散布で対応してください。

2 台木の選定

草勢がおとなしい品種なので、草勢の強い台木がおすすめです。

3 病虫害対策

「トマト黄化葉巻病」対策

トマト黄化葉巻病のイスラエル系統・マイルド系統の両方に耐病性を持ちますが、幼苗期や草勢が弱った時、高温期などは症状が出る場合があります。耐病性品種ですが、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除に努めてください。

「斑点病」対策

葉に径2~3mmの黒褐色の小斑点が発生し、これが多発すると果実にも症状が現れ、防除が難しく出荷が困難になります。斑点病に耐病性を持ちますが中程度の耐病性ですので、耐病性を過信せずに薬剤での防除や、多湿条件にしないなど耕種的防除を心がけてください。